

ろくおん通信

発行日： 1993年10月 15日

No. 57号

発行者： 盲人情報文化センター録音製作係

「音声訳」を考える（第8回）

漢字の補足 その3

録音製作 清水賢造

漢字の処理について、前回は「どんな時に」を具体例をあげて考えてみました。例文が短かった(?)のか、「もうひとつわかりにくい」といった声もありましたので、もう一度整理します。

「漢字の補足」と言っても、補足しなければならない理由は、それぞれ違いますので、その理由をハッキリさせることが理解を進めることになります。

漢字を補足する時とは「音声訳者が補足しないと墨字の内容が正しく伝わらない時」ということです。正確な音声訳を行う為ですから、小説であろうと専門書であろうと必要な時には補足がいきます。よく誤解されるようですが、「墨字の内容を正しく伝える」ということと、「墨字の内容が難しいから補足する」ということとは全く違います。墨字を読んでいる暗眼者は誰もが理解できる文章を、音声だけで聞いている人の場合にわからないという時に補足が必要だということです。

特に漢字を音声化すると、「どっちのことばかな？」と迷ったり、まったく分からずに「なんだろう？」と思ったり、最初から違う言葉の方を思っていたりすることがあります。そうしたケースで、いかに適切に音声訳者が補足をしていくかが、漢字の補足のポイントです。ですから音声訳者にとって「漢字の補足」の研究はたいへん大事なことです。補足するポイントが分かったら、こんどはよりわかりやすい補足の研究をしなくてはなりません。適切でない補足はかえって混乱させてしまいます。まずどんな時に行うかのポイントが分かれば補足の仕方、ハッキリしてくるはずです。

漢字の補足が必要になるケースを4つに分けてみました。前回5番目にしていた「かじぎを深める」は、「造語」と一緒にしてあります。

1. 同音異義語： 他にも同音異義語があり、複数の内容に解釈され正しく伝わらない。

補足のポイント→ 「どちらの言葉かが分かるように」補足する。

2. 音読みと訓読み： 同じ漢字だが前後でそれぞれ違う読み方をするため、同一であることが分からない。文章の混乱は起こらないが、著者の意図が正確に伝わらない。晴眼者には完全に理解される。

補足のポイント→ 読みは違うが同じ言葉であることを補足する。

3. 漢字自体を問題にしている時： 形（漢字）が問題になっているが、見えている人にはわかるが、本文中にその説明がないので補足しないとわからない。。

補足のポイント→ 何を問題にしているかをはっきりさせ、その足りない部分を補足する。
問題にしているケースは様々ですから充分検討が必要です。

4. 造語、本の題名、固有名詞など： 音だけでは、なんのことだかわからない。

補足のポイント→ 使われている漢字を説明することで、そのことばの意味やイメージを深める。

以上の4つについて、具体的な補足の例を検討していきます。

1. 同音異義語の例

同音異義語の場合は、どっちの言葉か迷ったり、別の言葉に解釈されてしまいそうな時に補足しますが、その補足の仕方には、

- A. 漢字を説明することで分かるときには漢字を説明する。
- B. 漢字の説明で分かりにくい時にはそれをさす言葉を補う。
- C. またはその言葉の意味を補足する。

などの方法がありますが、以下具体例で考えます。

「・・・個人個人の精神のカイワと生きることの肯定。・・・」

この文章では、大抵の人は「会話」の方に解釈してしまうでしょう。「会話」の方が一般的に耳慣れているので、「階和」とはわかりません。「階和」は「カイワ」または「カイカ」とも読みますが、「カイカ」と読んでも「開花？」と誤って解釈しそうです。

この場合の補足を「階段の階、昭和の和」などとしたら、「会話」でないことはわかるかもしれませんが、これでは混乱してしまいます。階段と昭和が結びつかなくてなんのことかわからなくなるからです。字をわからせることが目的ではなく、「調和」を意味する「階和」であることをわからせることが目的です。仮に、晴眼者は「階和」の意味を知らなくてもなんとなく漢字を見ることで意味がわかります。何のために補足をするかを考えれば、補足の仕方は、

「・・・個人個人の精神のカイワ、カイは音階のカイ、ワは調和するのワ、個人個人の精神のカ

イワと生きることの肯定。・・・」などと補足するか、又は、よりはっきりさせる為に、意味を補足して「・・・個人個人の精神のカイワ、カイワは調和するという意味のカイワ、個人個人の精神のカイワと生きる事の肯定。・・・」などします。意味で補足する時は、その言葉の意味が特定できる場合はいいのですが、意味が複数ありどれに当たるかはっきりしないような場合は注意が必要です。

B.の「それをさす言葉を補足する」の例としては、「規格と企画」の区別が必要な時に、「JIS規格のキカク」とか、「企画するのキカク」などとその熟語を含む言葉で説明することです。

2. 音読みと訓読みの例

音と訓の関係は前回の例文であげた、鏡川を「キョウセン」「カガミカワ」といった読み方をしなくてはならない時、補足がないと「キョウセン」と「カガミカワ」の関係がはっきりしません。中には理解できる読者もいるでしょうが、よりハッキリさせるには補足するしかありません。

「戦前の国の福祉についての考え方は、「ジュッキウ規則」という法律の名前をみれば、権利としての福祉ではなく、恤（アワレ）み救うという考え方で行っていたことがわかります。」

「ジュッキウのジュツがアワレみ、キウが救う」という漢字であることを補足すればより文章の意味がハッキリします。晴眼者は見ているから、いちいち断らなくても両者が同一の事をさしていることはすぐにわかりますが、「ジュツ」と「アワレミ」が一緒であることは補足がないとわかりません。→「ジュッキウキソク=恤救規則」

3. 漢字が問題になっている例

漢字が問題になっているケースはさまざまで何を問題にしているかを考え、漢字を思い描けない人が聴いても分かるような補足が必要です。説明の仕方としては、

- A. へんやつくりで説明する。
- B. 形が問題になっている時は、その部分を補う。
- C. よく使われている熟語などで説明する。

次の例文でどんな補足が必要か考えてみてください。

「私がこの本でご紹介するのは、奇人変人のお話だが、原本には伴藁蹊(バンガウイ)が編述した『近世畸人伝』と、八島五岳のあらわした『百家琦行伝』を主に使っている。藁蹊は江戸時代中期の国学者。五岳はそれより少しあとに、江戸で戯作を業とした人だった。「奇」といい「畸」といい「琦」といっても、意味はほぼ同じで「珍しい」「すぐれている」「ふうがわり」といった場合に、これらの文字を当てる。・・・」

この場合、字の補足が必要なのはすぐにわかると思います。この場合の補足の仕方は、「奇」の字は、熟語でも奇人変人などの熟語に使われていますのでわかりますが、後の字はそれとわかる熟語は見あたりません。字の説明をするしかないようです。では、どこで入れるとよいか。後

の3種類出てきたところで入れただけではなんのことだかわかりません。入れるとしたら、『近世畸人伝』と『百家琦行伝』のところで、「キ」の字の説明をしておかなくてはなりません。

補足の仕方としては、

「・・・。原本には伴藁蹊が編述した『近世畸人伝』、キヅデンのキはクヰンにツリカキヅデンのキ、と八島五岳のあらわした『百家琦行伝』、キヅデンのキはクヰンにツリカキヅデンのキ、を主に使っている。・・・した人だった。「奇」、キヅデンのキ、といい、「畸」、クヰンのキ、といい、「琦」、クヰンのキといっても、意味は・・・」

4. 造語などの例 (なにか分からない時)

補足の仕方としては、

- A・使われている意味に近い熟語などで補足する。
- B・意味で説明する。

著者によってはよく造語を使う人もあるようです。文章に出てきた例で「一律大学」とか、「科学は仮学」、「育児は育自」、本の題名で『開かれた共育・共生の扉』などがありますが、この場合「一律」「仮学」「育自」「共育」などは著者の造語ですから、字の説明がないと正しく伝わりません。とくに「一律」などは字そのものを説明したのではわかりません。著者が遊びで「一律」と「市立」とを掛けていますのでそれと分かる補足が必要です。「共育」という言葉は教育の世界ではよく使われている言葉ということですが、普通の辞書にはありません。字の補足がないと、誰もが「教育」なのか「共育」なのか区別はつかないのでしょうか。

説明の仕方としては、

「一律大学、イツは変化がなく同じという意味のイツ」、「科学は仮学、はじめの科学はサイエンス、あとのカクキはカリとかキヰルのカ」「育児は育自、アノイヅのジはジブツジ」「『開かれた共育・共生の扉』、キウイクはトモツグ」

以上、漢字の問題を再度整理するつもりで取り上げました。要するに、漢字の問題を簡単にいえば、

1. 同じ読みで意味が違う。
2. 違う読みなのに同じ、
3. 音だけではなんだか分からない、
4. 形(漢字)が見えないからわからない。

に分けられます。

漢字の処理が難しいのは、読み手は字を見てしまって十分にわかっている為、音だけでは正確に伝わらないところがどこなのか気づかないからです。校正者が原本を見ずに校正すれば気がつくところです。つまり、適切な補足がなかったら読者はわからないまま聞いていることになるのです。

さて、実際にはこれらが混在して出てくるのがよくあります。次の文章は少々難しいですが次回までの宿題です。考えてみてください。

「・・・大海人は天武と諡(オケ)されたが、伊勢神宮の神主が天平二年に著した伊勢神宮の由緒書である『往代希有記』には、仁武と表記されている。彼は仁武ともいわれていたのである。仁武は、又は神武天皇にも通じ、『書紀』の神武天皇条に天武の行為が投影されているというのは、多くの人々が指摘しているが、このことから裏付けられよう。

ところで、六四五年にはじまった太宗の高句麗征伐から二年後の六四七年、太宗は二度目の対高句麗戦を計画する。そこで、同年一二月、高句麗の宝蔵王は、子の莫離支高任武を入唐させ、太宗に謝罪させた。(『新唐書』<列伝一四五・東夷>「高句麗本紀」)

莫離支という称号は当時、蓋蘇文だけにかかるから、高任武はおそらく蓋蘇文本人である。任武は仁武とも読める。壬は陰陽五行思想でいえば、陽の水であり、大海を暗示しよう。イはニンベンで人である。これより、任の一字から大海人という名前が浮かび上がってくるのだ。・・・」

音声訳研修会の報告

次回の「音声訳研修の会」 11月26日(金) 1時半~3時半

9月から「音声訳研修の会」(2ヶ月に1回の予定)がスタートしました。今回は、山本七平・良樹共著の『父と息子の往復書簡』の本をコピーし、最初から音訳する要領でみんなで読み合いました。

目次の処理、略語の処理、カッコの処理、漢字(同音異義語)の処理、日本語につけられた外国語のルビの処理、外国語につけ

られた日本語のルビや綴りの処理、記号の処理などの処理の研究をしました。一部分だけの処理の研究もありますが、できるだけ一つの作品を通して処理の研究を行うことで共通の認識を深めました。

次回は、部分的な処理の研究も取り入れながら、引き続き第1回目のテキストを使って行います。

正誤表から・・・その32

語句	誤読	正しい読み	語句	誤読	正しい読み
粗利益	ソリエキ	アラリエキ	号哭	ゴウキュウ	ゴウコウ
不摂生	フセツショウ	フセツセイ	口称	コウショウ	クショウ
鹿毛	シカゲ	カゲ	在世	ザイセイ	ザイセ
憎悪	ゾウアク	ゾウオ	和船	ワブネ	ワセン

二通りの読み方があるが各々意味が異なるもの・・・その19

大人	ウシ オホ	領有し支配する人の称、転じて貴人の尊称。	不生	フショウ ウズ	不生不滅のこと。 子を生まぬこと。
内辺	ウチノ ウチノ	うちがわ。 内裏、宮中、大内	産子	ウツコ ウツ	あかご、生まれたばかりの子。 同じ産土神を奉ずる人。氏子。
内裏	ウチノ ウチノ	うちうち、着物の内緒裏につける布。 天皇の住居としての御殿	御岳	ウツ ウツ	沖縄の村々にある聖地で多くは、森。 長野、岐阜にまたがる活火山

東洋医学関係図書音訳勉強会ご案内

第3回 11月19日(金)

講師：片山一夫氏（国立神戸視障センター）
 会場：盲人情報文化センター 6階ボランティアルーム
 時間：午後3時～5時
 参加費：100円（資料代含む）
 内容：東洋医学関係資料の音声訳にあたっての知識を学ぶ。

第2回

音声訳研修の会

場所：盲人情報文化センター6階
 日時：1993年11月26日(金)
 13:30～15:30
 内容：音声変換研究（処理の研究）
 *参加費無料。どなたも参加出来ます。

音訳グループ

リーダー連絡会

場所：盲人情報文化センター6階
 日時：1993年11月26日(金)
 15:30～16:30
 内容：グループ交流・意見交換
 参加者：グループリーダーはどなたでも